



ワークフローウィンドウ

OnCommand Workflow Automation

NetApp
October 09, 2025

目次

ワークフローウィンドウ	1
ワークフローテーブル	1
ツールバー	3
[ワークフローの新規作成] ウィンドウ	4
新しいワークフロー	4
コマンドボタン	6
コマンドダイアログボックスのパラメータ	6
[リソースを選択 (Resource Selection)] ダイアログボックス	8
増分命名ウィザード	10
[行の繰り返しの詳細] ダイアログボックス	10
Workflow < ワークフローネーム > ウィンドウ	12
[ワークフロー] タブ	12
[詳細] タブ	13
[ユーザー入力] タブ	14
[定数] タブ	15
[戻りパラメータ] タブ	16
ヘルプコンテンツタブ	16
[詳細設定] タブ	17
コマンドボタン	17
[ワークフローの実行] ダイアログボックス	17
ユーザ入力	17
オプション (Options)	17
実行コメント	18
変数の編集 (Edit Variable) ダイアログボックス	18
プロパティ	18
グループ	20
依存関係	20
ワークフローのプレビューダイアログボックス	20
ユーザ入力値	20
コマンドボタン	20
モニタリングウィンドウ	21
ステータスエリア	21
フロータブ	21
[詳細] タブ	22
[実行プラン] タブ	22
[ユーザー入力] タブ	22
[戻りパラメータ] タブ	23
[履歴] タブ	23
コマンドボタン	23

[新しい承認ポイント] ダイアログボックス	23
コマンドボタン	24
[承認ポイントの編集] ダイアログボックス	24
コマンドボタン	25

ワークフローウィンドウ

[ワークフロー] ウィンドウには' 使用可能なすべてのワークフローがアルファベット順に表示されますこのウィンドウにアクセスするには、 * ワークフロー・デザイン * > * ワークフロー * を選択します。

ロールとアカウントの権限によっては、このウィンドウが表示されない場合があります。

- ・ワークフローテーブル
- ・ツールバー

ワークフローテーブル

ワークフロー (Workflows) テーブルには' 使用可能なワークフローがリストさ各列に対応したフィルタリング機能とソート機能を使用したり、列の順序を並べ替えたりして、テーブルの表示をカスタマイズできます。

- ・ テーブル全体のフィルタリングを有効または無効にします。フィルタリングが無効になっている場合は、アイコンの上に赤色の「x」が表示されます。
- ・ をダブルクリックします フィルタリングの選択をクリアおよびリセットします。
- ・ 各列ヘッダーのを使用すると、列の内容に基づいてフィルタリングできます。をクリックします 列では、ドロップダウンリストまたは使用可能なすべての項目で特定の項目をフィルタできます。
- ・ 列ヘッダーをクリックすると、ソートの昇順と降順が切り替わります。適用されたソート順序は、ソート用矢印 ((昇順の場合) および (降順の場合))。
- ・ 列の位置を並べ替えるには、列をドラッグアンドドロップして必要な順序で配置します。ただし、これらの列を非表示にしたり削除したりすることはできません。
- ・ [* 検索 * (Search *)] フィルタテキストボックスをクリックすると、特定のコンテンツを検索できます。さらに、対応する列タイプ、アルファベット、数字を指定して、サポートされている演算子を使用して検索することもできます。

[ワークフロー] テーブルには' 次のカラムがあります

- ・ * 認定 *

ワークフローがユーザ作成かどうかを示します () 、 ps () 、 community () 、ユーザーロック () 、またはネットアップ認定 () 。

フィルタリストから必要なオプションのチェックボックスをオンにすると、ワークフローを検索できます。

- ・ * 名前 *

ワークフローの名前が表示されます。

ワークフローを検索するには、 * 検索 * フィルタテキストボックスにワークフロー名を入力します。

- ・ * スキーム *

ワークフローに関連付けられているスキームを表示します。スキームはシステムのデータモデルを表しま

す。たとえば、VC スキームには、仮想マシン、ホスト、データストアなど、仮想環境に関連するデータが含まれます。

ワークフローを検索するには、*** 検索 * フィルタテキストボックス**にワークフロースキームのいずれかを入力します。

- *** エンティティバージョン ***

オブジェクトのバージョン番号を「major.minor.revision」形式で表示します。たとえば、1.0.0 です。

[*** 検索 * (Search *)**] フィルタテキストボックスにバージョン番号を入力することで、ワークフローを検索できます。

- *** 概要 ***

ワークフローの概要 が表示されます。

ワークフローを検索するには、*** 検索 * フィルタテキストボックス**にワークフローの概要 を入力します。

- *** OS 互換性 ***

ワークフローがホストオペレーティングシステムと互換性があるかどうかを示します。

- *** 最小ソフトウェアバージョン ***

ワークフローを実行するために必要なソフトウェアの最小バージョンを指定します。たとえば、clustered Data ONTAP 8.2.0 と vCenter 6.0 を使用できます。各バージョンがカンマで区切って表示されます。

- *** カテゴリ ***

ワークフローに関連付けられているユーザー定義のラベルを表示します。

カテゴリを使用して、ワークフローのコレクションを整理できます。たとえば、各ワークフローを区別できるように、プロビジョニングタスク用のカテゴリ、メンテナンスタスク用のカテゴリ、運用停止タスク用のカテゴリなどを別に用意しています。さらに、カテゴリを使用して、特定の演算子に対するワークフローの実行を制限します。

[*** 検索 * (Search *)**] フィルタテキストボックスにカテゴリを入力して、ワークフローを検索できます。

- *** 最終更新日 ***

ワークフローが最後に更新された日時が表示されます。

フィルタドロップダウンリストから必要な時間カテゴリを選択することで、ワークフローを検索できます。

- *** 更新者 ***

ワークフローを更新したユーザの名前が表示されます。

[*** 検索 * (Search *)**] フィルタテキストボックスにユーザー名を入力することで、ワークフローを検索できます。

- * ロック元 *

ワークフローをロックしたユーザーの名前が表示されます。

[* 検索 * (Search *)] フィルタテキストボックスにユーザー名を入力することで、ワークフローを検索できます。

- * 生産準備完了 *

ワークフローが本番環境向けに準備完了としてマークされているかどうかを示します (true または false) 。

フィルタリストから必要なプロダクションオプションチェックボックスをオンにすると、ワークフローを検索できます。

ツールバー

ツールバーは列ヘッダーの上にあります。ツールバーのアイコンを使用して、さまざまな操作を実行できます。これらのアクションには、ウィンドウの右クリックメニューからもアクセスできます。

- *  (新規) *

[新しいワークフロー] ウィンドウが開き、新しいワークフローの詳細を入力できます。

- *  (編集) *

選択したワークフローのワークフローエディタを開きます。このエディタでワークフローを編集できます。ワークフローをダブルクリックして、ワークフローエディタを開くこともできます。

- *  (クローン) *

[新しいワークフロー <selected_workflow_name> - コピー] ウィンドウを開きます。このウィンドウで、選択したワークフローのクローンまたはコピーを作成できます。

- *  (ロック) *

[ワークフローのロックの確認] ダイアログボックスが開き、選択したワークフローをロックできます。このオプションは、作成したワークフローに対してのみ有効になります。

- *  (ロック解除) *

[ワークフローのロック解除の確認] ダイアログボックスが開き、選択したワークフローのロックを解除できます。このオプションは、ユーザーがロックしたワークフローに対してのみ有効になります。ただし、管理者は他のユーザーによってロックされているワークフローをロック解除できます。

- *  (削除) *

ワークフローの削除の確認ダイアログボックスが開き、選択したワークフローを削除できます。このオプションは、作成したワークフローに対してのみ有効になります。

- *  (エクスポート) *

[File Download](ファイルのダウンロード) ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、選択したワークフローを .dar ファイルとして保存できます。このオプションは、作成したワークフローに対してのみ有効になります。

- *  (実行) *

選択したワークフローの [ワークフローの実行] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、ワークフローを実行できます。

- *  (パックに追加) *

パックワークフローに追加 (Add to Pack Workflow) ダイアログボックスが開き、' ワークフローとその信頼できるエンティティを編集可能なパックに追加できます



パックに追加機能は、認定が「* なし *」に設定されているワークフローでのみ有効になります

- *  (パックから削除) *

選択したワークフローのパックワークフローから削除ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、パックからワークフローを削除または削除できます。



パックから削除機能は、証明書が「* なし」に設定されているワークフローでのみ有効になります。*

[ワークフローの新規作成] ウィンドウ

[新しいワークフロー *] ウィンドウには、新しく作成されたワークフローとその関連コマンドが表示されます。

新しいワークフロー

[新しいワークフロー *] ウィンドウには、ウィンドウのヘッダーにワークフローの名前が表示されます。関連するコマンドは、列に青のボックスとして表示されます。列は実行の順番に従って表示されます。左から右、上から下に読み取られます。各コマンドの変数とオブジェクトは、コマンドの列にグレーのボックスで表示されます。

- * 行を挿入 *

ワークフローで選択した行の上または下に新しい行を追加します。

をクリックできます  をクリックして、最後に使用可能な行の下に行を追加します。

- * 行をコピー *

選択した行をワークフローからコピーしてクリップボードに保存します。行をコピーしても、その行に設定された繰り返しの詳細はコピーされません。

- * 行を貼り付け *

クリップボードに保存された最後のアイテムを '選択した行の下の新しい行に配置します' 変数には一意の名前が使用されますが、式の変数は変更されません。

- * 行の繰り返し *

[* 行繰り返しの詳細 * (* Row Repetition Details *)] ダイアログボックスを開きます。

- * 行の繰り返しを編集 *

[繰り返しの詳細 * (Row Repetition Details *)] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、選択した行の * 繰り返し行 * (Repeat Row *) アクションセットを修正できます。

- * 行の繰り返しを削除 *

選択した行の * 行繰り返しの詳細 * (* Row Repetition Details *) ダイアログボックスで設定されている * 行繰り返し * (Repeat Row *) アクションをキャンセルします。

- * 条件の追加 *

行 < 行番号 > の条件 (Conditions for row < 行番号 >) ダイアログボックスが開き、条件を選択できます。選択した条件は、行のすべてのコマンドに適用されます。選択した条件が満たされた場合にのみ、行のすべてのコマンドが実行されます。

- * 行を削除 *

選択した行をワークフローから削除します。

- * 新しい承認ポイント *

をクリックできます  [新しい承認ポイント * (New Approval Point *)] ダイアログボックスを開く。このダイアログボックスでは、コマンドの実行前に承認ポイントを追加できます。

- * 承認ポイントの編集 *

をクリックできます  承認ポイントコメントを編集できる [承認ポイントの編集 *] ダイアログボックスを開くには、次の手順を実行します。

- * コマンドパラメータの追加 *

選択した行にコマンドのパラメータを追加します。

選択したコマンドの下、目的の行にカーソルを置き、をクリックします  をクリックすると、[< コマンド名 > のパラメータ] ダイアログボックスが開きます。

- * コマンドパラメータの編集 *

Command の Parameters for < command_name > ダイアログボックスを開き、コマンドの選択したパラメータを変更できます。

編集するグレーのボックスにカーソルを合わせ、をクリックして [< コマンド名 > のパラメータ] ダイアログボックスを開きます。

- * コマンドパラメータの削除 *

パラメータを削除します。

削除するグレーのボックスの上にカーソルを移動し、グレーのボックスの右上隅にある「X」をクリックします。

コマンドボタン

コマンドボタンは、ワークフローウィンドウの下部にあります。コマンドには、ウィンドウの右クリックメニューからもアクセスできます。

- * プレビュー *

[ワークフローのプレビュー *] ダイアログボックスが開き、ユーザー入力属性を指定できます。

- * 名前を付けて保存 *

ワークフローを新しい名前で保存できます。

- * 保存 *

ワークフローを保存します。

- * 閉じる *

ウィンドウを閉じます。このプロセスでは、構成に変更が加えられた場合、変更の保存、変更を保存せずにウィンドウを閉じる、または終了アクションをキャンセルするように求める * 変更の保存確認 * ダイアログボックスが開きます。

コマンドダイアログボックスのパラメータ

[コマンドのパラメータ (Parameters for commands)] ダイアログボックスを使用して、コマンドの実行用のパラメータおよびその他の設定を指定できます。

ダイアログボックスには、1つ以上のディクショナリオブジェクトタブと次のタブが表示されます。

- その他のパラメータ
- 詳細設定

<辞書オブジェクト> タブ

- * <dictionary object>* を定義します

属性の指定、以前に定義したオブジェクトの使用、または既存のオブジェクトの検索によって、ディクショナリオブジェクトにマッピングされるコマンドパラメータを指定できます。

- * 属性の入力 *

この変数の属性を入力できます。マークされたフィールドには、[リソースを選択 (Resource Selection)] ダイアログボックスを使用できます 。必要に応じて、オブジェクトの特定の属性の定義済みの値を含むテンプレートを使用できます。追加の属性を表示および使用するには、[

<dictionary object>* で使用される属性のみを表示（Show only attributes used by <dictionary object>*）] チェックボックスをオフにします。[Define <dictionary object>] の横のボックスには、選択した変数のデフォルト名が表示されます。変数の名前を編集できます。必須属性には、ボックスのアスタリスク (*) と赤の枠線が付いています。

- * 以前に定義した <dictionary object>* を使用します

以前に定義した変数を選択できます。[Define <dictionary object>] の横のボックスで、以前に定義したディクショナリオブジェクトを選択できます。

- * 既存の <辞書オブジェクト>* を検索します

既存のディクショナリオブジェクトを検索して変数を定義できます。ディクショナリオブジェクトの検索条件を指定できます。ディクショナリオブジェクトが見つかった場合は、次のいずれかのアクションを指定できます。

- ワークフローを中止する
- コマンドを無効にします
- <dictionary object> の属性を入力し、コマンドを実行します



このオプションは、[属性を入力して* (By filling-in attributes*)] オプションに似ています。

その他のパラメータ

コマンドの実行用にディクショナリオブジェクトにマッピングされていないコマンドパラメータを指定できます。

詳細設定

コマンドの実行条件を指定し、概要を提供できます。ワークフロー内の 1 つ以上のコマンドが失敗した場合でもワークフローを継続するように、ワークフローを設定することもできます。

- * このコマンドを実行します*

- * 常に*

無条件にコマンドを実行します。

- * 次の変数が見つかった場合*

指定した変数が見つかった場合にのみコマンドを実行できます。隣接するボックスで変数を指定できます。

- * 次の変数が見つからなかった場合*

指定した変数が見つからない場合にのみコマンドを実行できます。隣接するボックスで変数を指定できます。

- * 次の式が TRUE* の場合

指定した MVFLEX 式言語（MVEL）式が「true」の場合にのみ、コマンドを実行できます。隣接するボックスに式を指定できます。

- * 概要 *

コマンドの概要を入力できます。

- * 実行に失敗した場合 *

- * ワークフローの実行を中止 *

ワークフローの実行を終了できます。

- * 次の手順 * から実行を続行します

次の手順からワークフローの実行を続行できます。

- * 次の行からの実行を続行 *

次の行からワークフローの実行を続行できます。

[リソースを選択（Resource Selection）] ダイアログボックス

[リソースを選択（Resource Selection）] ダイアログボックスでは、リソースを検索してコマンドにマッピングできます。

- <dictionary object> By タブを選択します
- [詳細設定] タブ

<dictionary object> By タブを選択します

このタブでは、検索条件としてファインダまたはフィルタを指定し、選択した検索条件の属性を入力できます。選択したフィルタを Finder として保存することもできます。

- * フィルタルールを定義 *

vFiler ユニット、アグリゲート、仮想マシンなど、ディクショナリエントリリソース用のルールセットを定義できます。

フィルタルールには、1つ以上のルールグループを含めることができます。

ルールは、ディクショナリエントリ属性、演算子、および値で構成されます。属性には、その参照の属性も含めることができます。たとえば、次のようにアグリゲートのルールを指定できます。List all aggregates with name starting with the string "aggr>" and have an available size greater than 5GB . グループの最初のルールは属性 "name" で、演算子 "starts-name", および値 "aggr" です。同じグループの2番目の規則は '属性 "available_size_MB"' で '演算子は ">" で ' 値は "5000" です

Finder を選択した場合は、「* フィルタルールを定義する *」オプションが無効になります。

指定した値をクリアするには、* リセット * ボタンをクリックします。

- * 自然キーで 1 つのリソースを選択 *

リソースの自然キーに基づいてリソースを選択できます。

- * Finder *

リストから Finder を選択できます。* なし * がデフォルトで選択されています。

フィルタは Finder リストの下に表示されます。Finder を選択した場合は、フィルタを選択できません。

- * パラメータ *

選択したファインダまたはフィルタの値を入力できます。検索条件を満たすために必要なすべての値を入力する必要があります。

- * コマンドボタン *

- * Finder として保存 *

選択したフィルタを Finder として保存します。

- * テスト *

パラメーター（Parameters）領域で値を指定する前に、選択したフィルタのパラメーターをテストできます。

- * OK *

設定を保存してダイアログボックスを閉じます。

- * キャンセル *

変更がある場合はキャンセルしてダイアログボックスを閉じます。

【詳細設定】タブ

このタブでは、検索を実行するタイミングを指定したり、リソース属性とリソース属性のステータスをソートしたりできます。

- * この検索は常に実行してください *

コマンドの実行時に制限なしで検索を実行します。

- * 次の式が TRUE * と評価された場合のみ、検索を実行します

ボックスで指定されたオプション属性の値が「真」の場合にのみ、検索を実行します。オプションの属性を指定するには、MVEL（MVEL）構文を使用します。

- * ソートテーブル *

*Select <辞書オブジェクト> By * タブで選択したフィルターの属性と並べ替え順序を表示します。ソート順序は、リソースの選択にとって重要です。たとえば、アグリゲートのソート順序として descending を選択した場合、最大「available_space」のアグリゲートがリソースとして選択されます。属性のソー

ト順序を変更するには、属性のステータス列をクリックし、リストから必要なソート順序を選択します。

- * コマンドボタン *

- * 上 *

選択したエントリをソートテーブルの 1 行上に移動します。

- * 下 *

選択したエントリをソートテーブルの 1 行下に移動します。

増分命名ウィザード

増分ネーミングウィザードを使用すると、既存のパラメーターの検索に基づいて属性の値を定義できます。

- * 既存の <辞書オブジェクト>* の検索条件

[リソースを選択 * (* Resource Selection *)] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、ディクショナリオブジェクトの検索条件を指定できます。

- * 上記の検索条件に一致する <dictionary object> がない場合は、<attribute> の値を入力します。 *

指定した検索条件を使用して <dictionary object> が見つからない場合に、<attribute> の値を指定できます。

- * 上記の検索条件を使用して <辞書オブジェクト> が見つかった場合は、<属性> の値を * で設定します

指定した検索条件を使用して <dictionary object> が見つからない場合に、<attribute> の値を指定できます。

- * 上記の検索条件に一致する <dictionary object> がない場合は、<attribute> の値を入力します。 *

指定した検索条件を使用して <dictionary object> が見つかった場合に、<attribute> の値を設定するメソッドを選択できます。

- * 増分値とサフィックス * を指定します

増分の数値を入力できます。必要に応じて、属性名のサフィックスを入力することもできます。

- * カスタム式 * を提供します

属性の値のカスタム式を入力できます。MVEL (MVEL) 構文を使用して、値を指定できます。

【行の繰り返しの詳細】ダイアログボックス

行繰り返しの詳細 (Row Repetition Details) ダイアログボックスでは、行のパラメーターを繰り返す方法を指定できます。

繰り返し

必要な繰り返しオプションのタイプを選択できます。デフォルトでは、回数 * オプションが選択されています。

- * 回数 *

次の項目を指定できます。

- 特定の行を実行する回数
- インデックス変数 (Index Variable)
- 変数 (variables)
- * 回数 *

特定の行を実行する回数を指定できます。

- * インデックス変数 *

行の繰り返しに使用するインデックス変数の名前を指定できます。

- * 変数 *

行の繰り返し中に使用する必要がある追加の変数を含めることができます。

- * 追加 *。

変数テーブルに新しい行を追加します。

- * 削除 *

選択した行を変数テーブルから削除します。

- * グループ内のすべてのリソース *

次の項目を指定できます。

- リソースタイプ (Resource Type)
- リソース検索条件
- リソース変数 (Resource Variable)
- インデックス変数 (Index Variable)
- グループサイズ変数
- 変数 (variables)
- * リソースタイプ *

リソースタイプを選択できます。

- * リソース検索条件 *

[リソースを選択 (Resource Selection)] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、選択したリソースタイプのリソースを検索するための条件を指定できます。指定した条件に基づいて、検索された各リソースに対してループが実行されます。

- * リソース変数 *

リソース変数の名前を入力できます。

- * インデックス変数 *

行の繰り返しのインデックスを指定できます。

- * グループサイズ変数 *

グループサイズ変数の名前を入力できます。

- * 変数 *

行の繰り返し中に使用する必要がある追加の変数を含めることができます。

- * コマンドボタン *

- * OK *

設定を保存してダイアログボックスを閉じます。

- * キャンセル *

変更がある場合は保存されず、ダイアログボックスが閉じます。

Workflow <ワークフローネ名> ウィンドウ

[ワークフロー <ワークフローネ名>] ウィンドウには、選択したワークフローとその関連コマンドおよびパラメータが表示されます。ワークフローに関連するコマンドは、列に青のボックスとして表示され、列は実行の順番（左から右）で並べられます。各コマンドの変数とオブジェクトは、コマンドの下にグレーのボックスで表示されます。

【ワークフロー】タブ

[ワークフロー] タブでは、子ワークフローとコマンドを選択して使用し、表示名をカスタマイズできます。

- * 利用可能なステップ *

ワークフローに追加できる、使用可能な子ワークフローとコマンドのリストが表示されます。

テキストボックスで検索文字列として名前、スキーム、および最小ソフトウェアバージョンを使用することで、子ワークフローまたはコマンドを検索できます。

コマンドの順序を並べ替えることで、ワークフローの表示をカスタマイズできます。コマンドを並べ替えるには、コマンドを必要な順序でドラッグアンドドロップします。コマンドをダブルクリックすると、そのコマンドがリストの末尾に移動します。青のボックス内のコマンドの表示名をダブルクリックすると、

表示名を変更できます。コマンドを削除するには'カーソルを青いボックスの上に移動し'右上隅の [X] をクリックします

行番号をクリックすると、その行に対してさまざまな機能を実行できます。

- * 行を挿入 *

ワークフローで選択した行の上または下に新しい行を挿入します。

- * 行をコピー *

選択した行をワークフローからコピーしてクリップボードに保存します。行の繰り返しの詳細セットは、行がコピーされるときにコピーされます。

- * 行の繰り返し *

[行の繰り返しの詳細] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、繰り返しの種類を指定できます。

- * 条件の追加 *

行 < 行番号 > の条件ダイアログボックスが開き、条件を選択できます。選択した条件は、行のすべてのコマンドに適用されます。選択した条件が満たされた場合にのみ、行のすべてのコマンドが実行されます。

- * 行を削除 *

選択した行をワークフローから削除します。

- * 行を貼り付け *

選択した行の上または下にコピーした行を貼り付けます。このオプションは、[行をコピー (Copy row)] 機能を選択した後で使用できます

【 詳細 】タブ

[詳細] タブでは、ワークフローに関する一般的な情報を指定できます。

- * ワークフローネーム *

英数字の文字列を使用してワークフローの名前を指定できます。

- * エンティティバージョン *

ワークフローのバージョン番号を 'major.minor.revision' 形式で入力できますたとえば '1.0.0' です

- * カテゴリ *

ワークフローの関連カテゴリが表示されます。[カテゴリ] ウィンドウからワークフローをカテゴリに割り当てることができます。

- * ワークフロー概要 *

ワークフローの概要を入力できます。フィールド内をクリックすると、[編集 (Edit)] [編集 (概要)] ダイアログボックスが開きます。

- * 生産準備完了 *

ワークフローを本番用に準備しておくことができますこれにより 'ワークフローを実行して [ワークフロー] ウィンドウに一覧表示することができます

- * 予約された要素 * を考慮しなさい

ワークフローで選択したリソースが使用可能になっている場合に、設定したリザベーションの有効期限まで、ワークフローでリザベーション機能を使用できます。リザベーション機能を使用すると、リソースの選択時に他のワークフローで予約されているリソースを除外できます。



他のワークフローで設定された予約を考慮せずに永続キャッシュのコンテンツのみを検索するフィルタが必要な場合は、このチェックボックスをオンにしないでください。

- * 要素の存在検証を有効にします *

エレメントの存在を検証し、ワークフローの実行中に特定のアクションの失敗を回避できます。たとえば、既存のボリュームと同じ名前の新しいボリュームをアレイに作成することは避けてください。

- * 最小ソフトウェアバージョン *

ワークフローを実行するために必要なソフトウェアの最小バージョンを指定します。たとえば、clustered Data ONTAP 8.2.0 と vCenter 6.0 を使用できます。各バージョンがカンマで区切って表示されます。

[ユーザー入力] タブ

[ユーザー入力 (User Inputs)] タブでは、ワークフローオブジェクトを定義し、ユーザー入力を作成したときに作成したユーザー入力属性を表示および編集できます。ワークフローをプレビューまたは実行すると、ユーザー入力属性の値が入力されます。

編集するユーザー入力をダブルクリックすると、[変数の編集 : <ユーザー入力> (Edit Variable : <user_input>)] ダイアログボックスが開き、ユーザー入力を編集できます。

列の順序を並べ替えることで、テーブルの表示をカスタマイズできます。列を並べ替えるには、列を必要な順序でドラッグアンドドロップします。ただし、これらの列を非表示にしたり削除したりすることはできません。

- * 名前 *

ユーザ入力属性の名前を表示します。

- * 表示名 *

ワークフローユーザに表示される名前が表示されます。

- * タイプ *

文字列、クエリ、ブーリアン、テーブルなどのユーザ入力タイプを表示します。または password。

- * 値 *

ユーザ入力に使用できる値を表示します。たとえば、数値の範囲や文字列の正規表現などです。

- * デフォルト値 *

ユーザ入力のデフォルト値が表示されます。

- * 入力依存関係 *

選択したユーザー入力に値を提供する、リストからの別のユーザー入力を表示します。

- * グループ *

ユーザ入力属性のグループの名前が表示されます。

- * 必須 *

ユーザ入力のステータスが表示されます。このチェックボックスがオンになっている場合、ワークフローの実行にはユーザ入力属性が必須です。

- * コマンドボタン *

- * 上 *

選択したエントリをテーブル内の 1 行上に移動します。

- * 下 *

選択したエントリをテーブル内の 1 行下に移動します。

[定数] タブ

[定数] タブでは、ワークフローで複数回使用できる定数の値を定義できます。定数の値として、次の項目を指定できます。

- 数字
- 文字列
- MVEL 式
- 機能
- ユーザ入力
- 変数 (variables)

各列をソートしたり、列の順序を並べ替えたりして、テーブルの表示をカスタマイズできます。

- * 名前 *

定数の名前を表示します。

- * 概要 *

定数の概要を指定できます。

- * 値 *

定数の値を指定できます。

- * コマンドボタン *

- * 追加 *。

定数 (Constants) テーブルに新しい行を追加します

- * 削除 *。

選択した行を定数 (Constants) テーブルから削除します

定数を右クリックして、コピー & ペースト機能を使用することもできます。

[戻りパラメータ] タブ

Return Parameters タブでは、Monitoring ウィンドウまたは Web サービスから表示できるワークフローの戻りパラメータの概要を定義および提供できます。

- * パラメータ値 *

パラメータ値を指定できます。

- * パラメータ名 *

パラメータ名を指定できます。

- * 概要 *

選択したパラメータの概要を指定できます。

- * コマンドボタン *

- * 行を追加 *

Return Parameters テーブルに新しい行を追加します。

- * 行の削除 *

選択した行を Return Parameters テーブルから削除します。

ヘルプコンテンツタブ

[ヘルプコンテンツ] タブでは、ワークフローのヘルプコンテンツを追加、表示、および削除できます。ワークフロー ヘルプの内容は、ストレージオペレータ向けのワークフローに関する情報を提供します。

[詳細設定] タブ

Advanced タブでは、API呼び出しを使用したワークフローの実行用にカスタム URI パスを設定できます。URI パス内の各セグメントには、文字列またはかっこ内のワークフローのユーザ入力の有効な名前を使用できます。

たとえば、/DevOps / { ProjectName } / clone のように指定します。ワークフローは、_https://wfa-Server:HTTPS_PORT_rest/DevOps / Project1/clone/jobs の呼び出しとして呼び出すことができます。

コマンドボタン

コマンドボタンは、ワークフローウィンドウの下部にあります。コマンドには、ウィンドウの右クリックメニューからもアクセスできます。

- * プレビュー *

[ワークフローのプレビュー] ダイアログボックスが開き、ユーザー入力属性を指定できます。

- * 名前を付けて保存 *

ワークフローを新しい名前で保存できます。

- * 保存 *

構成設定を保存します。

[ワークフローの実行] ダイアログボックス

[ワークフローの実行] ダイアログボックスでは、ワークフローに必要なユーザー入力、実行時間、および実行コメントを指定できます。

ユーザ入力

ワークフローの入力を指定できます。必須属性にはアスタリスク (*) が付けられ、ボックスの境界線は赤で表示されます。

オプション (Options)

ワークフローの実行時間を指定できます。

- * 今すぐ実行 *

ワークフローをすぐに実行できます。

- * 再帰的に実行 *

ワークフローを定期的に繰り返すように設定できます。このオプションは、スケジュールが作成されている場合にのみ表示されます。

- * 1回実行 *

ワークフローの実行をスケジュールできます。

実行コメント

ワークフローの実行に関するコメントを指定できます。このコメントは、[実行ステータス (Execution Status)] ウィンドウに表示されます。

変数の編集（Edit Variable）ダイアログボックス

変数の編集：<UserInputName> ダイアログボックスでは、ワークフローのユーザー入力属性を編集できます。

プロパティ

- * 変数名 *

ユーザ入力の名前を編集できます。ユーザー入力の名前を変更すると、ワークフロー内のユーザー入力に対するすべての参照が更新されます。

- * 表示名 *

ユーザ入力の表示名を指定または編集できます。同様の名前でユーザ入力属性を作成した場合は、一意の表示名を指定できます。

- * 概要 *

ユーザ入力の概要を指定または編集できます。ワークフローを実行またはプレビューすると、概要がツールチップとして表示されます。

- * タイプ *

ユーザ入力のタイプを選択できます。選択したオプションに基づいて、フィールドまたはダイアログボックスへのリンクが表示されます。使用できるオプションは次のとおりです。

- string : regex フィールドに有効な値の正規表現を入力できます。たとえば、「*」と入力します。
- Number : Range フィールドに数値範囲を入力できます。たとえば、1～15 のように入力できます。
- Enum : [Enum Values] フィールドに、値の閉じたリストを入力できます。
- Query : 単純な SQL クエリを入力して結果を取得できます。

ユーザーは、結果の最初の列から値のみを選択できます。

- クエリ（複数選択）：値のリストを取得する SQL クエリを入力できます。

ワークフローの実行中に单一の値または複数の値を選択できます。たとえば、单一のボリューム、複数のボリューム、または共有とエクスポートが設定されたボリュームを選択できます。

結果に表示された任意の列から値を選択できます。行を選択すると、選択した行のすべての列から値が選択されます。

- ブール：[ユーザー入力（ User Inputs ）] ダイアログボックスにチェックボックスを表示できます。
- 表：ワークフローの実行中に複数の値を入力できるテーブルの列ヘッダーを指定できます。たとえば、ノード名とポート名のリストを指定するテーブルなどです。

列ユーザー入力のタイプと、列ユーザー入力に関連付けられたプロパティを構成することもできます。選択したユーザ入力タイプに基づいてダイアログボックスが表示されます。使用できるオプションは次のとおりです。

- string : regex フィールドに有効な値の正規表現を入力できます。たとえば、「 * 」と入力します。
- Number : Range フィールドに数値範囲を入力できます。たとえば、1 ~ 15 のように入力できます。
- Enum : [Enum Values] フィールドに、値の閉じたリストを入力できます。
- Query : 単純な SQL クエリを入力して結果を取得できます。

ユーザーは、結果の最初の列から値のみを選択できます。テーブルユーザ入力の列内のクエリは、クエリ内の他のユーザ入力を参照できません。

- Boolean : ドロップダウンリストからブール値として「 true 」または「 false 」を選択できます。
- Password : ユーザに入力として提供されるパスワードを暗号化できます。

暗号化されている場合、WFA アプリケーションとログファイルに一連のアスタリスク文字が表示されます。

- 辞書 : 選択した辞書エントリのテーブルデータを追加できます。

辞書エントリ属性は、返される属性を選択します。ワークフローの実行中に、单一の値または複数の値を選択できます。たとえば、単一のボリューム、複数のボリューム、または共有とエクスポートが設定されているボリュームを選択できます。デフォルトでは、単一の値が選択されています。フィルタ処理のルールを選択することもできます。ルールは、ディクショナリエントリ属性、演算子、および値で構成されます。属性には、その参照の属性も含めることができます。たとえば、文字列「 aggr 」で始まる名前のすべてのアグリゲートを一覧表示し、使用可能なサイズが 5GB を超えるアグリゲートのルールを指定できます。グループの最初の規則は ' 属性名 ' 演算子 'starts-name' と値 kaggr です同じグループの 2 番目の規則は ' 属性 available_size_mb ' で ' 演算子は '>' および値は 5000 です

- * ロック値 *

クエリから返された値以外の値の入力をユーザに許可するかどうかを指定できます。このチェックボックスをオンにすると、ユーザは値を指定できません。選択できるのは、クエリーから返された値のみです。このオプションは、Enum および Query type オプションとともに使用します。

- * デフォルト値 *

ユーザ入力のデフォルト値を設定できます。

- * 必須 *

ワークフローの実行にユーザ入力が必須かどうかを指定できます。

グループ

- * グループ名 *

関連するユーザ入力属性をグループ化できます。ユーザー入力属性は、ワークフローのプレビューまたは実行時に定義したグループに表示されます。たとえば、ボリュームの詳細に関するユーザ入力属性をグループ化できます。

- * デフォルトでグループを展開 *

グループに指定されているすべてのユーザ入力属性を展開リストとして表示できます。このチェックボックスをオフにすると、ユーザー入力グループが折りたたまれて表示されます。

依存関係

別のユーザ入力用に入力した値に基づいてユーザ入力を有効にできます。たとえば 'NAS プロトコルを構成するワークフローでは '読み取り / 書き込みホスト・リスト'" ユーザー入力 " または CIFS ACL 設定 " を有効にするために 'プロトコルに必要なユーザー入力を "NFS" として指定できます

- * 依存するユーザー入力を選択します *

変数名フィールドに表示されるユーザー入力を有効にするために必要なユーザー入力を選択できます。

- * 適用可能な値（カンマ区切り） *

変数名フィールドに表示されるユーザー入力を有効にする条件付きユーザー入力の値を指定できます。

ワークフローのプレビューダイアログボックス

[ワークフローのプレビュー] ダイアログボックスでは、ワークフローに関連付けられたユーザー入力の値を指定し、指定した値を使用してワークフローの実行をプレビューできます。

ユーザ入力値

[ワークフローのプレビュー] ダイアログボックスには、選択したワークフローに関連付けられたユーザー入力が表示され、ユーザー入力の値を設定できます。

コマンドボタン

- * プレビュー *

関連するワークフローの Monitoring ウィンドウを開きます。

- * キャンセル *

ダイアログボックスを閉じます。

モニタリングウィンドウ

Monitoring ウィンドウには、ワークフローの計画フェーズまたは実行フェーズの結果の詳細が表示されます。ウィンドウのタブには、読み取り専用のコンテンツが表示されます。このウィンドウには、 * Details * 、 * Preview * 、または * Execute * の各オプションを選択する際に、WFA アプリケーションのさまざまな領域からアクセスできます。

- ・ステータスエリア
- ・フロータブ
- ・[詳細] タブ
- ・[実行プラン] タブ
- ・ユーザ入力
- ・[戻りパラメータ] タブ
- ・[履歴] タブ

ステータスエリア

タブの上にあるステータス領域には、計画または実行プロセスの結果に関する詳細情報が表示されます。

- ・* ワークフローステータス *

ウィンドウの上部に、色分けされたヘッダーには、計画または実行プロセスの結果が表示されます。

- 緑は、成功したアクションを示します。たとえば、「計画完了」または「実行完了」などです。
- 赤は失敗を示します。たとえば、計画失敗や実行失敗などです。

- ・* より少ない / より多くの情報アクション *

このアクションリンクは、プレビューまたは実行プロセスが失敗した場合に使用できます。アクションリンクを使用して、* 詳細情報 * と * 詳細情報 * を切り替えることができます。アクションに応じて、リンクが情報ボックスを開いたり閉じたりして、失敗した結果に関する情報を表示したりします。

- ・* 詳細ステータス *

このボックスは、プレビューまたは実行プロセスが失敗した場合に使用できます。計画または実行プロセスの詳細が表示されます。プロセスが失敗した場合、このボックスはデフォルトで開き、失敗の原因の詳細が表示されます。

フロータブ

[フロー] タブには、ワークフローのグラフィック表示があります。

コマンドと子のワークフローが一番上の行に表示され、オブジェクトと変数が下に表示されます。プレビューまたは実行中のコマンドの詳細と子ワークフローのステータスは、さまざまな色で表示されます。

次の表に、次の情報を示します。

- ・コマンドまたはワークフロー実行のステータスを表示するために使用されるカラースキーム
- ・ウィンドウで使用されるアイコン

配色とアイコン	ステータス
	実行に成功しました
	実行に失敗しました
	実行中です
	実行をスキップしました
	子ワークフローヘッダー
	ログを開きます
	子ワークフローには承認ポイントが含まれています

[詳細] タブ

[詳細] タブには、ワークフローの詳細情報が表示されます。この情報はテーブル形式で提供され、ヘッダー行のコマンドと、以下に示す関連オブジェクトおよび変数が含まれます。このタブには、各コマンドの引数とパラメータがすべて表示されます。

このタブは、ワークフローのプレビューまたは実行に失敗した場合のデバッグに役立ちます。

[実行プラン] タブ

[実行プラン] タブには、ワークフローコマンドと、実行中の引数（スクリプトまたはコマンド）の変換されたリストが表示されます。

このタブを使用して、ワークフローの失敗したプレビューまたは実行のデバッグを行うことができます。

[ユーザー入力] タブ

[ユーザー入力] タブには、ワークフローのプレビューまたは実行中にユーザーが入力した値が表示されます。

ソート用矢印（▼ または ▲）をクリックし、列エントリを昇順または降順でソートします。

[戻りパラメータ] タブ

[戻りパラメータ] タブには、ワークフローの出力をパラメータ名とパラメータ値で一覧表示します。

これらの戻りパラメータには、Web サービスを使用してアクセスできます。

[履歴] タブ

[履歴] タブには、ワークフローのステータス、ステータス変更が発生した日時、アクションを開始したユーザ、およびステータス変更に関するメッセージが表示されます。

コマンドボタン

- * ダウンロードログ *

特定の実行ログを含むすべてのログファイルの 'zip' ファイルをダウンロードできます

- * 列の表示 / 非表示 *

[詳細] タブの列の表示と非表示を切り替えることができます。

- * OK *

Monitoring ウィンドウを閉じます。

[新しい承認ポイント] ダイアログボックス

[新しい承認ポイント] ダイアログボックスでは、ワークフローのチェックポイントとして承認ポイントを追加し、ワークフローの実行を一時停止して、承認に基づいて再開できます。

- * コメントを入力します（オプション） *

変更時刻、ユーザ、コメントなどの情報を指定できます。これにより、ワークフローの実行が一時停止または再開されたタイミングと理由を確認できます。

承認ポイントのコメントには、MVEL（MVEL）式を含めることができます。

- * 実行条件を入力します（ある場合） *

コマンドの実行条件を指定できます。

- 常に

無条件にコマンドを実行します。

- 次の変数が見つかった場合

指定した変数が見つかった場合にのみコマンドを実行できます。ボックスで変数を指定できます。

- 次の変数が見つからなかった場合

指定した変数が見つからない場合にのみコマンドを実行できます。ボックスで変数を指定できます。

- 次の式が true の場合

指定された MVEL 式が「真」の場合にのみ、コマンドを実行できます。ボックスに式を指定できます。

コマンドボタン

- * OK *

承認ポイントを追加できます。

- * キャンセル *

変更がある場合はキャンセルしてダイアログボックスを閉じます。

[承認ポイントの編集] ダイアログボックス

[承認ポイントの編集] ダイアログボックスでは、ワークフローのチェックポイントとして追加された承認ポイントを変更して、ワークフローの実行を一時停止し、承認に基づいて再開できます。

- * コメントを入力します（オプション） *

変更時刻、ユーザ、コメントなどの情報を指定できます。これにより、ワークフローの実行が一時停止または再開されたタイミングと理由を確認できます。

承認ポイントのコメントには、MVEL（MVEL）式を含めることができます。

- * 実行条件を入力します（ある場合） *

コマンドの実行に関して、次の条件を指定できます。

- 常に

無条件にコマンドを実行します。

- 次の変数が見つかった場合

指定した変数が見つかった場合にのみコマンドを実行できます。ボックスで変数を指定できます。

- 次の変数が見つからなかった場合

指定した変数が見つからない場合にのみコマンドを実行できます。ボックスで変数を指定できます。

- 次の式が true の場合

指定された MVEL 式が「真」の場合にのみ、コマンドを実行できます。ボックスに式を指定できます。

コマンドボタン

- * 承認の削除 *

コマンドを実行する前に承認ポイントを削除できます。

- * OK *

承認ポイントの設定に対する変更を変更できます。

- * キャンセル *

変更がある場合はキャンセルしてダイアログボックスを閉じます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。